

# 第18回 全国農林水産物直売サミット 開催報告

## ～地域の食・農・文化を未来につなぐ直売所～



会場には「産直しゃきっと」(鶴岡市)の会員さんにアレンジしてもらった、オール鶴岡産の季節の花々が飾られました。

- ◆日程 2019年10月17日(木)～18日(金)
- ◆会場 山形県鶴岡市「東京第一ホテル鶴岡」
- ◆視察 山形県下の直売所をめぐる4コース

◆参加者 約300名

- 本年度の全国直売サミットは、直売所を拠点に6次産業化の推進、郷土食や在来作物の継承、グリーン・ツーリズムや地域づくり活動が早くから活発に進められている山形県下で開催。
- 開催地の鶴岡市は、日本で唯一ユネスコの「食文化創造都市」に認定され、数百年にわたる「在来作物」の継承をはじめ、伝統を活かした新たな食文化の創造や、直売所・農家レストラン、農家民宿の取組みなど、全国に先駆けた活動が活発に展開されています。
- 山形県内の直売所は、まさに「食・農・文化を未来へつなぐ拠点」として各地に息づいていました。



- 鶴岡を本拠とする「アル・ケッチャーノ」の奥田 政行 オーナーシェフからは特別講演として、「直売所とレストランの良い関係の作り方」を伝授してもらいました。
- 日本の在来作物研究の第一人者である山形大学農学部(鶴岡市)の江頭 宏昌 教授からは、第①分科会において「直売所で在来作物を活用する具体策」について、山形の在来作物の紹介も交え、詳しく解説していただきました。



道の駅・おばあちゃん市山岡  
後藤 妙子 前駅長



産直まゆの郷 坂本孝一郎 会長



産直めぐり 澤川 宏一社長

- 直売所の活動紹介は「道の駅・おばあちゃん市山岡」(岐阜県恵那市)の後藤 妙子 前・駅長、山形県内からは「産直まゆの郷」(新庄市)の坂本 孝一郎会長、「産直めぐり」(鶴岡市)の澤川 宏一社長に報告して頂きました。いずれも直売所が地域振興の拠点となり、息の長い直売活動が進められています。



- サミットの開会時には、山形県の若松副知事、鶴岡市の皆川市長、農林水産省東北農政局の大高参事官より歓迎の挨拶を頂きました。主催者からは、(一財)都市農山漁村交流活性化機構の臼杵徳一専務理事が代表し、全国よりご参加頂いた皆様、ご協力頂いた地元の皆様に御礼を申し上げます。

主催 (一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう) 共催 全国農産物直売ネットワーク  
後援 山形県 鶴岡市 農林水産省 J A 全中 J A 山形中央会 (一社)山形県農業会議  
全国直売所研究会 (一社)全国農業改良普及支援協会 (一社)農山漁村文化協会 (一社)全国農協観光協会



# 第18回 全国農林水産物直売サミット 開催報告

## ～地域の食・農・文化を未来につなぐ直売所～

分科会は、**6つのテーマ**で開催。今の直売所が抱える最前線の課題をテーマにして、熱心な情報交換を進めました。

分科会①「直売所から伝える、在来作物と食文化」（アドバイザー）山形大学農学部食料生命環境学科 教授 江頭 宏昌 氏

分科会②「冬期・閑散期の品揃えと集客の工夫」（アドバイザー）産直しゃきっと 組合長 阿部 貢 氏

分科会③「直売所の店長・スタッフの心得と人材育成」（アドバイザー）産直あぐり 店長 叶野 由佳 氏

分科会④ **情報交換**「直売所におけるキャッシュレス時代の対応を考える」

分科会⑤ **フリートーク**「今の直売所の悩みを語りあう」～直売所に関わる人達が抱える現場の悩みを語る座談会～

分科会⑥ **特別講座**「農産物直売所は6次産業化のトップランナー」 講師：まちむら交流きこう 代表 今村 奈良臣



山形大学農学部食料生命環境学科  
教授 江頭 宏昌さん



産直しゃきっと(鶴岡市)  
組合長 阿部 貢さん



産直あぐり(鶴岡市)  
店長 叶野 由佳さん



まちむら交流きこう  
今村 奈良臣 理事長



第4分科会



第5分科会

最後の全体会では、分科会のアドバイザーに加え、分科会に参加された有志のお二人にも登壇して頂き、分科会の様子を報告してもらいました。限られた時間でしたが、皆様のご協力、誠にありがとうございました。

第4分科会は、道の駅あいとうマーガレットステーション（滋賀県東近江市）館長の大平健太郎さん、第5分科会は、JA鶴岡「もんとあ〜る」（鶴岡市）の産直課長の瀧本 啓さんより分科会の様子を報告してもらいました

## 第18回 全国農林水産物直売サミット 参加者アンケート から

### ◆全体について

- ・ どの話も、直売所だけではなく地域を盛り上げるにはという観点だったので、やる気が出た
- ・ 全国の直売所の人達と出会い、交流が出来て良かった
- ・ 地元のおもてなしが素晴らしかった
- ・ タイムリーなテーマと永遠の課題のどれも興味深く、良い話を聞くことができた

### ◆今後希望する企画について

- ・ 次世代への引継ぎがスムーズに行えている直売所の事例
- ・ 若い生産者、直売所経営者のつながりがもっとできると良い
- ・ 幅広い年齢層の関わり方について
- ・ 直売活動、農業、環境問題などが上手く両立する方法
- ・ 経営者の世代交代も必要だが、地域コミュニティの拠点としての役割や買い物場所としての直売所の役割も大切だ
- ・ さらに小グループでのディスカッションも期待したい
- ・ 災害時の直売所の役割について考える





# 第18回 全国農林水産物直売サミット 開催報告（交流会）

## ～地域の食・農・文化を未来につなぐ直売所～



産直サミット メニュー

《buffet台》

- ・最上 赤ニンニクのスパゲティ
- ・最上 畑茄子のピザ
- ・庄内 平田赤葱のマリネ＆鴨スモーク
- ・置賜 おかひじきと鶏ムネ肉のアンチョビガーリック炒め
- ・サワラの唐揚げ 村山もってのほかと彩り野菜の中華餡かけ
- ・庄内浜お造り盛り合わせ 鱈・真鯛・おぼこさわらのタタキ

《コーナー》

- ・蔵王 かぼちゃのクリームスープ
- ・温海かぶとスモークサーモンのピンチョス
- ・村山 子姫芋のそのまんまコロッケ



交流会では山形県内の旬の在来作物を用いた特別メニューと地酒を堪能させていただきました  
～あたたかな地元のお心遣いに、心より御礼申し上げます～



- 交流会には北海道から沖縄まで160名を超す皆様にご参加頂きました。今回は山形の旬の在来作物を使用した直売サミット向けの特別メニューが提供され、「雪国やまがた伝統野菜PR大使」から1つ1つの料理をご紹介頂きました。
- 山形県からは、サミット参加者全員に「つや姫」「果樹ジュース」「出羽三山の水」のプレゼントのほか、交流会にて酒造好適米『雪女神』を使用した県産酒をご提供頂きました。
- 鶴岡市からは6月の山形県沖地震で被災した地元酒蔵の復興応援に向けて、地酒やワインを交流会にご提供頂きました。



- 交流会の終盤で、次年度（2020年度）の全国直売サミットの開催地を発表。来年度は**広島県尾道市**で開催することが決定しました。
- 鶴岡市の皆川市長からエールが贈られ、道の駅クロスロードみつぎ「野菜市」（尾道市）の綾目文雄 副代表より、第19回サミットに向けた歓迎の言葉を頂きました。鶴岡市と尾道市はいずれも日本遺産に指定され、かつては北前船での交流もある縁の深い都市です。
- 交流会の最後は、長崎県大村市からご参加頂いた、全国直売所研究会の山口成美代表（おむら夢ファームシュシュ代表）より、「明日は直売所で沢山買物して下さい。一店で3千円以上はお願いします」と翌日の直売所視察につながる激励の言葉で締めくくられました。



# 第18回 全国農林水産物直売サミット 開催報告（直売所現地視察）

## A 「ぐるっと庄内」コース（庄内北方面）

庄内地方を代表する直売所をめぐるコース。庄内柿・庄内米・郷土食など地域色あふれる商品がどの直売所に並んでいました。酒田市では、現役の米倉庫で観光名所でもある「山居倉庫」と直売所「山居館」も訪問。昼食は道の駅・風車市場の主婦レストランで郷土料理をふんだんに入れたサミット特別メニューを堪能。食農王国・庄内を体感する内容でした。



## B 「たっぷり鶴岡」コース（庄内南方面）

鶴岡市内の個性ある直売所をめぐるコース。JA鶴岡の「もとあ〜る」、きのこや在来作物が豊富な「産直あさひぐー」、羽黒・のうきょう加工食品の在来作物の漬物加工・販売所など、同じ市内でも立地による個性が光る店ばかり。昼食は、産直あぐりで、つや姫・多品種のぶどう・庄内柿・芋煮など、旬の味覚をすべて味わえるサミット特別ランチを堪能。最後に明治以降の鶴岡の農業振興の礎となった「松ヶ岡閑塾記念館」を訪ね、農の歴史も含めて鶴岡をたっぷり味わいました。





# 第18回 全国農林水産物直売サミット 開催報告（直売所現地視察）

## C 「産地をめぐる」コース（最上・村山方面）

山形県内の大産地にある直売所をめぐるコース。多品種野菜が盛り沢山の「産直しゃきつと」（鶴岡市）、豪雪地にある「まゆの郷」（新庄市）、尾花沢すいかの大産地にある「産直ねまる」（尾花沢市）、県内一の売り上げを誇る「よってけポポラ」（東根市）、山形市に今年新設された「おいしさ直売所」（落合店）と、商品構成にも個性がある店ばかり。昼食は蚕室を改修した「まゆの郷」の2階で、地元の農家レストランが作る地場野菜を中心としたランチと芋煮を味わいました。



## D 「やまがた満喫」コース（西村山・置賜方面）

庄内から置賜まで、山形県内を北から南まで縦断するコース。鶴岡市の「産直めぐり」をスタートし、JAさがえ西村山の「アグリランド」（寒河江市）の農村レストラン「四季亭」で郷土料理づくりの特別御膳で昼食。さらに南下し、白鷹町の「どおり農園直売所」、上山市の民間直売所「トマト」、2018年に開業した人気店「道の駅米沢」では、各店の開設の想いや経営方針を伺いました。最も移動の長いコースでしたが、各所で直売所を率いるリーダー達の熱い想いにふれました。



天候に恵まれ、米・柿・ぶどう・芋煮など、秋の山形の味覚をたっぷり味わい、たくさん買物もさせていただきました。今後の直売所間交流につながる交流ができました。受け入れて頂いた山形の直売所の皆様、誠にありがとうございました。